

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500238		
法人名	特定非営利活動法人あやめ		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	長野県飯田市川路2682番地		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kani=tru&JigvosvoCd=2090500238-00&PrefCd=20&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=tru&JigvosvoCd=2090500238-00&PrefCd=20&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所		
所在地	長野県飯田市上郷別府3307番地5		
訪問調査日	平成31年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人あやめの理念、「地域福祉の拠点」を目指し、「さろんあやめ」・「介護相談センターあやめ」・「グループホームあやめ」と順次創りあげてきました。「さろんあやめ」のデイサービスを利用され、その後、ご家族の介護負担の相談から「グループホームあやめ」に入所される方がいます。利用者さんが地域で馴染みのある施設を通して継続した介護が受けられるようになり、安心して生活できるようになりました。「グループホームあやめ」では、今年度ベランダ(渡り廊下)を設置して、「さろんあやめ」と靴を脱がずに交流できるようになりました。演芸ボランティアが来てくれた時には、「さろんあやめ」の利用者さんが来てくださったり、「さろんあやめ」での夏祭りや敬老会、クリスマス会などに「グループホームあやめ」の利用者さんと呼んでくださったりします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは、設立3年目を迎え、外部評価も2回受審してきた。この間、設備の面で、南側に広いベランダを設置したので、隣の「さろんあやめ」との交流もたやすくなり、洗濯物を干したり、日向ぼっこをしたりできるようになって、活動に幅ができてきている。  
また、法人全体で家族会を開いたり、地域のいろいろな方に参加してもらう運営推進会議を開いたりして、さらに地域に開かれ、理解されるグループホームになってきている。そして、利用者の家族とも手紙のやり取りを通して、さらに理解を深め合ってきている。  
このようにして、管理者や職員が一体となって新しいグループホームを創りあげていく努力が目に見えて、素晴らしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( )			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

グループホーム あやめ  
(別紙)  
自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、最後までその人らしく住み続けられる」という法人の理念に基づき、「さろんあやめ」の利用者さん同士の交流を活発にしたり、地域のボランティアの受け入れなどを積極的に行ったりしています。	法人の理念の基、「利用者の尊厳・思い・地域や家族の支え・生き生きとした職員」を4本の柱にして実践してきて、「グループホームあやめ」では、「住み慣れた地域で、最期までその人らしく住み続けられるよう」に努めていくことの大切さを強調してきている。	さらに実践を続けていく中で、グループホーム独自の理念を創りあげていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域のいろいろな方々に参加していただき、2カ月に1回実施し、グループホームでの様子を伝え、理解を深めています。また、「あやめ便り」を通じてグループホームの活動内容や日頃の様子を発信しています。	地域の保育園には月1回訪問したり、小学校の運動会や音楽会に参加したりしている。中学生の体験学習も受け入れている。このように小さな者と触れ合う機会が利用者にとって楽しみになっている。また、演芸ボランティアを「さろんあやめ」と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、11月18日に地域の自治振興センターをお借りして、「さろんあやめ」「さろんまめだに」と合同で家族会を開きました。たくさんの方の利用者さん、ご家族や地域の方に参加していただきました。各事業所の発表やご家族の体験談などを通して、みなさんに理解していただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議終了後にアンケートを実施しています。質問や疑問に挙げたことを職員会で報告し、前向きに検討しています。	運営推進会議は、議題によって関係者の参加を呼びかけ、共通理解を深めている。保育園との交流では、保育園長に参加してもらい、具体的な話し合いを持つことができた。また、運営推進会議後には、参加者にアンケートを実施して、運営やケアの実践に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者に出席していただいています。昨年は自治振興センター長さんに参加していただいたことで、相談がしやすい関係が築けました。	運営推進会議には、包括支援センターの職員の参加はもちろん、議題によって関係職員の参加を依頼し、広く多方面からの情報や意見を取り入れ、連携を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月の運営推進会議では法人の理事を講師に招き、身体拘束について話を聞きました。2月には女子短期大学の先生の研修会で、利用者さんの尊厳や虐待防止の話を聞きました。	いわゆる身体拘束だけではなく、利用者の要望に「ちょっと待っていてね」というようなスピーチロックや、薬を使って利用者を動けなくないようにしてしまうドラッグロックなどの拘束を視野に入れ、研修をしている。	身体拘束の指針の作成がまだ十分でないので、完成して、周知していきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月の職員会では、資料の読み合わせと話し合いを行いました。2月には女子短期大学の先生を招いて研修会を行いました。利用者さんの尊厳や虐待防止の話を聞きました。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんの中には、自分で金銭管理をされている方がおりますが、いろいろなことへの理解が徐々にできなくなっているため、今後が心配になります。関わる職員を限定して、金銭の対応もしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や利用費の値上げに関する話は、管理者が対応しています。契約などで相談に困った際は、ご家族と直接連絡が取れるように携帯電話でも対応しています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の後に、アンケートを実施しています。そこでの意見や提案については、職員会や法人の所長会議でも報告し、話し合っています。	普段は担当職員が利用者から、面会時や電話での問い合わせ時には家族から職員を通して意見や要望を受け入れ、職員会や法人の所長会議で話し合うようにしている。そして、できること、できないことを明らかにし、理解を得るようにしている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で挙げた議題について、法人の所長会議で検討しています。所長会議で解決できないことは、法人の運営委員会で話し合っています。	職員会を月1回、ケース検討会を兼ねて行っている。司会は管理者が行い、行事等については主任、ケアについてはケアマネージャーが担当し、話し合いを活発に行っている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の会話の中で、聞き取りを行っています。年1回の自己評価や面接の際に各職員が向上心を持って働けるよう心掛けています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がかつていろいろな事業所や違う介護現場で働いていたので、それぞれの高いスキルを感じています。それぞれが得意分野などで学習会を開き、発表しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度の家族会を実施するにあたって、法人の各事業所の主任に参加していただき、職員同士の連携を深めました。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	私たちは、自分を信頼していただけるようにしっかりコミュニケーションを図り、関係づくりを行っています。利用者さんの心配事にそのつどしっかり向き合い、グループホームが居心地の良い場所になるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	私たちは、利用者さんの思いを尊重したケアを心掛けていることを伝えます。その中で、できることとできないことがあり、できるだけ正直に伝えることで信頼していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を確認します。できるだけ、今までの生活が変わってしまわないよう、徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんに役割を果たしていただけるような場面を探し、提供するとともに、役割を果たしてくださった時は、感謝の言葉を伝え、敬意を持って接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの利用者さんに担当職員を設け、ご家族への連絡は担当にお願いしています。昨年の外部評価の助言により、今年度から毎月利用者さんの様子を手紙でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの親戚や友人、近所の方々などに気軽に面会に来ていただけるようにお伝えしています。隣の「さろんあやめ」に来る友人や知人との交流ができるように、演芸ボランティアの会などを合同で開催しています。	担当職員が、毎月家族あてに手紙を送るようになって、家族からの返事があり、関係が密接になってきている。そして、お正月やお盆に実家に帰ったり、家族と外出したりする機会も出てきている。また、グループホームに寄ってもらえる機会も増えてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を職員が共有するように努めています。そして、利用者さん同士が自然に関わりが持てるような環境づくりを心掛けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者さんのご家族に何度かお見舞いに伺い、退所の意向を確認させていただきました。ご家族の不安を少しでも軽減できるように相談したり、医療機関との連携を行ってきました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や意向を大切にし、日頃からコミュニケーションを大事にしています。また、利用者さんを中心とした支援が行えるように心掛けています。ご家族・関係者から入所以前の情報を得るようにしています。	毎日の勤務のメモを元にした利用者それぞれの「介護記録」の記録や、家族との情報・連絡をまとめた「アセスメントチャート」を活用している。また、職員間の「連絡ノート」を活用して、共有するようにしている。こうした利用者・家族と職員との関わりから、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、これまで過ごしていた施設やお世話になっていたケアマネージャーから情報提供していただいたり、ご家族や地域の方の話を聞き取ったりして、十分な把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解して、持てる能力が発揮できる状況を見極めながら支援に努めています。利用者さんの分かることやできることを職員会などで確認しながら行っています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしい暮らしを支援するため、日々の生活の中から課題を見つけ、担当職員を中心にモニタリングを行い、全員でカンファレンスを行っています。また、ご本人やご家族の意見・要望を聞いて反映し、状況に応じた介護計画を作成しています。	利用者の担当職員が評価した「モニタリングシート」の1か月の支援の様子を元に、介護計画を作成するようにしている。ケアマネージャーは、担当者会で情報を提供してもらい、さらに利用者の状況に応じた介護計画作成や見直しに努めている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量や排泄状況等の他、ご本人の言葉や行動などのできごとを記録しています。その他、「連絡ノート」を作り、職員間で情報の共有に努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、病院への受診や、銀行や美容院・接骨院などの送迎などを支援しています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋や接骨院まで散歩したりしながら、気分転換を図っています。また、近くの保育園と毎月、定期的に交流を行っています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時、状況報告を往診記録に残しながら行っています。利用者さんが薬や体調面の心配事などを、直接先生に話を聞いてもらうようにしています。	利用者はそれぞれの主治医に受診している。協力医の往診もあり、安心して過ごすことができている。また、歯科医の往診もある。グループホーム専任の看護師がいて、隣の「さろんあやめ」の看護師の協力を頼めることができ、日々の健康保持が充実している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から利用者さんの状態を把握してしてくれるグループホーム専任の看護師がおり、日頃の健康状態や医療面での相談や処置に対応できるようになっています。緊急時は、「さろんあやめ」の看護師も協力して対応してくれます。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を時々ご家族へうかがい、回復状況などの情報をいただき、退院時には速やかにご本人の状態に合わせた支援ができるように心掛けています。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向や、ご本人にとってどうあったら良いかをお聞きしています。グループホームの方針や・対応について理解していただき、急変時の緊急対応についても相談しています。	この1年間で利用者1人の看取りを行った。その時の経験を活かし、看取りについての指針やマニュアルを作成していきたいと考えている。	看取りの指針やマニュアルを作成していきたい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は講習会などに参加していませんが、緊急時は職員間で連絡を取り合っており、看護師を要請したり、訪問して下さる医師と連絡を取ったりして対応しています。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行いました。その内の1回は、「さろんあやめ」と合同で、防災担当者を設置し、研修会に参加し、防災避難計画を作成しました。	今年度7月に、消防署の協力の下、昼間の火災での通報・消火・避難訓練を行った。11月には、隣の「さろんあやめ」との合同で、地震における避難訓練を行ってきた。	夜間の避難訓練や36災害の経験を活かした防災訓練を行ってきたい。

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員が敬意を持って利用者さんと日々接するように心掛けています。指示が多い職員もいますが、利用者さん一人ひとりがゆっくり過ごせるグループホームを目指し、今後改善していけると良いと思います。	職員の中には、利用者の認知症の進み具合で自分の意図が伝わらない時、違うやり方に変えていかなければならないのに、どうしたらいいのか分からなくなり、強い言葉で言えば良いと思ってしまう場合がある。具体的な活動で変えていく必要があると考え、定期的で継続的な研修を行っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのそれぞれの状態に合わせて、できるだけ自分で決めていただくように努めています。また、各担当職員がそれぞれの利用者さんの希望や好みを見極め、生活の中へ取り入れるように努めています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせてではなく、一人ひとりの体調や状況に合わせた個別性のある対応を心掛けています。認知症でできないことに対して、丁寧にゆっくり時間をかけて相手が理解するのを待てない場面もあります。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選ぶように、ご本人の気持ちを配慮した支援をしています。定期的に床屋や訪問美容を依頼し、その人らしさを保てるよう心掛けています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと一緒に、野菜の下ごしらえや味噌汁やカレーを作ったり、食器や湯飲み拭きなどをしたりするような、個別にできることを手伝っていただいています。	昼食や夕食は、職員が利用者のケアを優先するという考えの元、業者に委託している。実際に食した昼食は、おかずを温め、おいしく食べることができた。朝食は、味噌汁やおひたし・卵焼きなど、行事食としてカレーなどは、利用者と一緒に楽しく作っている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食利用者さんと職員が同じ物を一緒に食事しています。観察しながら、食べやすい形態を検討して工夫したり、食べる量を検討したりして利用者さんの体調に配慮しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個別に声かけし、口腔・舌のケアを行っています。見守りや、介助が必要な方にもできるだけご本人に行っていただき、できない部分の介助をさせていただいています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を分かりやすいよう表示しています。声かけに配慮しながら、ご本人の習慣やパターンに合わせた誘導を行っています。	車椅子の利用者はいないが、歩行器利用者が1名おり、トイレ介助を必要な利用者が6名いる。利用者の排泄パターンを把握して、それぞれの状態に合うように紙パンツやパットなどを用意して、自立に向けた支援を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録して便秘予防に努めています。日頃から散歩や屋内での適度な運動や手作りヨーグルトを毎日食べて便秘の予防をしています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの好みに合わせた室温・湯温を心掛け、ゆっくりとお風呂に入りたい方は、順番やその日入る利用者さんを配慮しています。立位が困難になってもリフトを使って入浴することができます。入浴剤などを使いリラックスした雰囲気を中心掛けています。	入浴については、利用者全員を見守り、利用者の状態に応じて6名は介助している。そして、広い浴室にリフトを備え、1名の利用者が利用している。このようにして、利用者がどのような状態でも入浴を楽しむことができるように取り組んでいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やして生活リズムを整えています。午睡の習慣のない方には、個別にパズルや読書、作業など、自分の好きなことをしていただいています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに服薬内容の明細を置き、各職員が内容をいつでも確認できるようにしています。確実に服薬できるように管理表へ1日分を並べ、一目で飲み忘れが確認できるようにしています。薬の変更があった場合は、その後の様子などを観察しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん同士が助け合い協力し合って生活を送ることで、良好な関係が作られます。生活に張り合いが持てるように支援しています。個々に得意なことや、お願いできそうな仕事を依頼し、そのつど、感謝の言葉かけをするようにしています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ散歩やドライブなどに出かけ、気分転換をしています。小学校での運動会や音楽会、地域の文化祭やお祭りなどの行事に出かけ、楽しんでいただいています。今年度は、保育園と月1回定期交流会を行いました。食材や日用品の買い出しにも、毎回同行してもらっています。	普段は、グループホームの周りを散歩したりして、気分転換をしている。また、毎日のごみ捨て、買い物、食べ物の買い出しなどに5・6人の利用者が交替で車で出かけ、3・4人の利用者はいろいろな作業を行い、生活の中で活動を大切にしている。	



グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向をうかがい、ご家族の理解を得て、現金を少し持参していただき、接骨院や床屋での支払いをご自分でしていただくように支援しています。利用者さんによっては、銀行にも一緒に行って金銭管理のお手伝いをしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんによっては携帯電話を持参し、いつでも連絡が取れるように支援しています。グループホームへきた電話にご本人に出て、話していただくこともあります。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには季節の分るような飾りを飾ったり、花を飾ったりして心地よい空間作りを目指しています。最近、南の窓側のソファーにみんなが集まります。	南側にソファーを置いたリビングがあり、利用者が明るく、温かな空間でゆったり過ごすことができる。リビングに連なるダイニングやキッチンは、天窓を広くとってあるので明るく、快適な食事を楽しむことができる。また、職員が利用者を見守りやすい配置になっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える窓際にソファーを置き、気の合う方々でゆっくり話ができる場所としています。夜テレビを見る際もソファーに並んで座っていただき、仲良く過ごしています。今年度は、広いベランダも完成し、天気の良い日は日向ぼっこをしています。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人から話を聞いたり、ご家族から情報をいただいて、自宅から慣れ親しんだ品物や家具(寝具やタンス)などを持参していただき、今までの馴染みのある暮らし方を大切に、それぞれにとって居心地の良い居室になるように心掛けています。居室は閉鎖的にならないよう、明るく開放的になるように心掛け、馴染みのある品など置いたりしています。	居室から共用スペースに移動する利用者の動線を工夫しているので、どの居室からも共用スペースに出やすいようになっている。それぞれの居室には、備え付けの家具が設置されており、すっきりと収納できるようになっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすいよう目印や名前を付けています。今年度は、広いベランダができたので、利用者と一緒に洗濯物も干しています。		